

三井のリフォーム 住生活研究所 所長 西田 恭子

母と娘の仲良し親子

母と娘の友達親子が世相を動かし、母娘ヘアの服だけを売るお店まで登場した。母と娘は姉妹のように一緒にショッピングをし、グルメを楽しむのだが、同時に母は娘の先輩として、尊敬される存在にもなってきた。

ある州政府主催の新年会でお会いした、「町田ひろ子アカデミー」校長の町田ひろ子さんのお嬢様、町田瑞穂・ロテアさんもその一人ではないだろうか。インテリアコーディネーターの草分けというだけではなくインテリア業界をビジネスとして作り上げ、女性として多くの支持者を得ている母を、娘はどう思っているのだろうか？

新年会でお会いしたのをきっかけに、当研究所に町田瑞穂・ロテアさんが私を尋ねてきてくださった。仕事の話はさておき、思わず「ご家庭ではお母様はどんな方？」とお聞きした。ウォーキングを欠かさず、朝食からパワフルに語りながら仕事を指示する、と話す彼女の瞳は、母を尊敬しています！とキラキラと輝いていた。

同じ会社で親子が働くことはなかなか大変なことではないかと思っていた私だが、偉大な母の元でさらにステップアップしようと、果敢に仕事をこなす彼女がほほえましく、また頼もしく思えた。

戦国時代、親を切り捨て、子どもさえも手に掛ける武将とは違う、しなやかに強い母と娘のタックルが組まれているように思う。

最近、親子で出版された本を持参してくださいました。『Interior de Diet (インテリア・デ・ダイエット)』写真Ⅱというタイトルだが、二人の写真がページの最後を飾っていた。賢く空間を「ダイエット」して、ヘルシーで個性が光るインテリアを目指してみませんか？と問いかけ、自分のための、自分にふさわしい、心地よいコーディネート提案している。

また、同校の卒業制作プレゼンテーションに、特別コメンテーターとして参加させていただいたのだが、インテリア部門が、社内の日常リフォーム業務の課題だった。設計条件は、定年

を押えて中古マンションを購入し、夫の母を含む四人暮らしだ。一〇〇平方メートルの面積に家族がつどい・支えあう暮らしが、収納ギャラリーや音楽をキーワードとするなど、次々と描き出された。

それぞれの力作に、講評も気持ちよくさせていただきましたが、一点だけ、夫の母との同居には共に集う空間だけでなく、それぞれが「個」でいられる空間の工夫がほしかったと話させていただいた。

代表発表者は六人中五人が女性だった。男性社会といわれていた建築業界・リフォーム業界も、男性陣が好むと好まざるに関わらず、インテリアを切り口に働く女性の波が押し寄せている。それぞれの存在の仕方を認めながら、また弱点も補いながら、男性も女性もともに働く喜びを共有できる日は近いのだろうか。



西田恭子氏のプロフィール「一級建築士。「三井のリフォーム」で設計を手がけ二五年。暮らしの創造に貢献する「三井のリフォーム 住生活研究所」の所長に就任。新聞・雑誌・書籍の執筆、各種セミナーで講演を行う。文化女子大学非常勤講師。日本女子大学住居学科卒。